

新年のご挨拶

国有林があってよかったとと思っていただけるように



北海道森林管理局長 関口 高士

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新春をお迎えになられたことと、お慶び申し上げます。

また、日頃より、国有林野の管理経営について、ご理解、ご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、北海道森林管理局が管理経営する国有林は、森林の整備や木材の生産が行われるのはもちろんのこと、レクリエーション等様々な利用がなされているほか、水源の涵養や山地災害の防止等、いわゆる森林の公益的機能によって、地域の生活にも大きな影響を与えています。このため、国有林に求める姿というものは、その人の立場によって違うものと思われま

す。他方、気候の変動が顕著になっており、現在、北海道内に生育している樹木が今後の気候に適合していけるかも定かではありません。加えて、森林に住む生き物も、それぞれに好む生息環境があり、生物多様性の観点から、それぞれに適した環境を整備するとともに、特定の生き物のみが生息域を拡大するといったことも避ける必要があります。

このようなことから、我々は、今、求められていることに加え、50年後、100年後の姿を想定した森林づくりを行っていかねばなりません。

国有林としては、そのための大きな方向性として「多様な森林づくり」を推進しているところです。これは、地域の要望や地球環境問題等も踏まえたそれぞれに求められる姿に対応するのに加え、予測が難しい将来に向けたリスク管理でもあります。

先人たちから継承された森林に敬意を表しつつ、当面は、充実した人工林資源は活かし再生産

（再造林）に取り組む、経済的に経営が難しい人工林については針広混交林化を目指す、天然林については資源の回復を図りながら、生物多様性の保全や鳥獣害対策等に必要な場合は手入れを行う、などが基本的な取組になると考えています。

また、未来に向けた森林づくりには、林業の活性化が不可欠です。機械化等により、素材生産に関する生産性は向上しており、今後はこれらに加え、造林・育林作業の省力化・効率化が重要になります。北海道では、全国に先駆けた取組が可能と考えており、国有林において率先して取り組み、その情報を発信していきたいと考えています。

加えて、災害が激甚化する中で、地域の方々の安全・安心なくらしの確保は我々にとっても大きな課題です。森林整備による山地災害防止等の公益的機能の確保はもちろんですが、治山事業の推進、林道等の路網の整備、病虫害対策等にも積極的に対応するとともに、ICTの活用など、新たな取組により、これらの課題についてもより効果的かつ効率的に実施していく考えです。

他方、地域あつての国有林であることも自覚しているところです。森林のレクリエーション利用やアイヌ文化の継承等、地域に貢献できるよう取り組むとともに、北海道の皆様の声に耳を傾け、皆様に国有林があってよかったとと思っていただけるよう、局署一丸となって努力してまいります。引き続きのご支援、ご協力をいただければ幸いです。

本年が北海道の森林・林業・木材産業にとって飛躍の年となりますこと、また、皆様方のご健勝とご多幸を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願いいたします。